

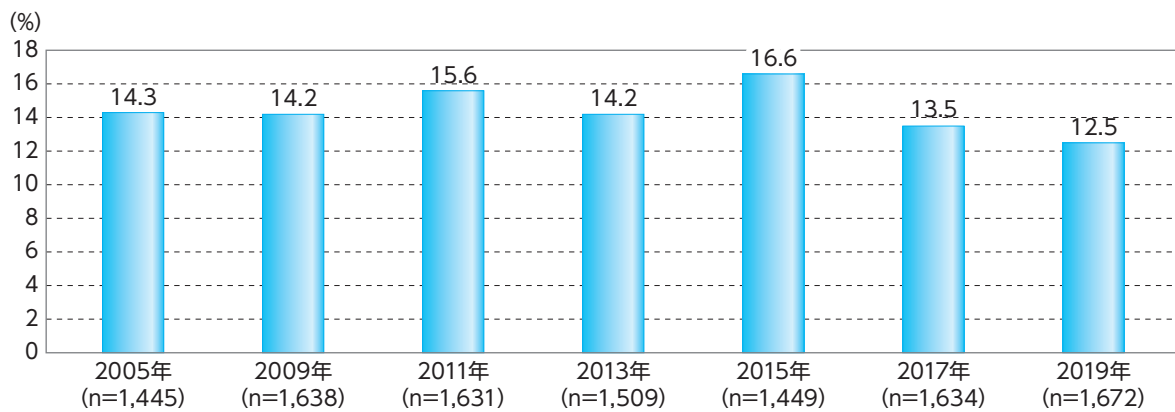
## 8 スポーツボランティア

### 8-1 スポーツボランティア実施状況

12～21歳を対象に、過去1年間に運動・スポーツ活動の手伝いや世話など、スポーツ活動をささえるボランティア活動（スポーツボランティア）を行ったことがあるかたずねた。図8-1にスポーツボランティア実施率の年次推移を示した。今回の2019年調査では「ある」と回答し

た者は全体の12.5%であり、わが国の12～21歳のスポーツボランティア人口は146万人と推計できる。2019年のボランティア実施率は、調査を始めて以来最も高い2015年（16.6%）と比べ、4.1ポイント減少した。

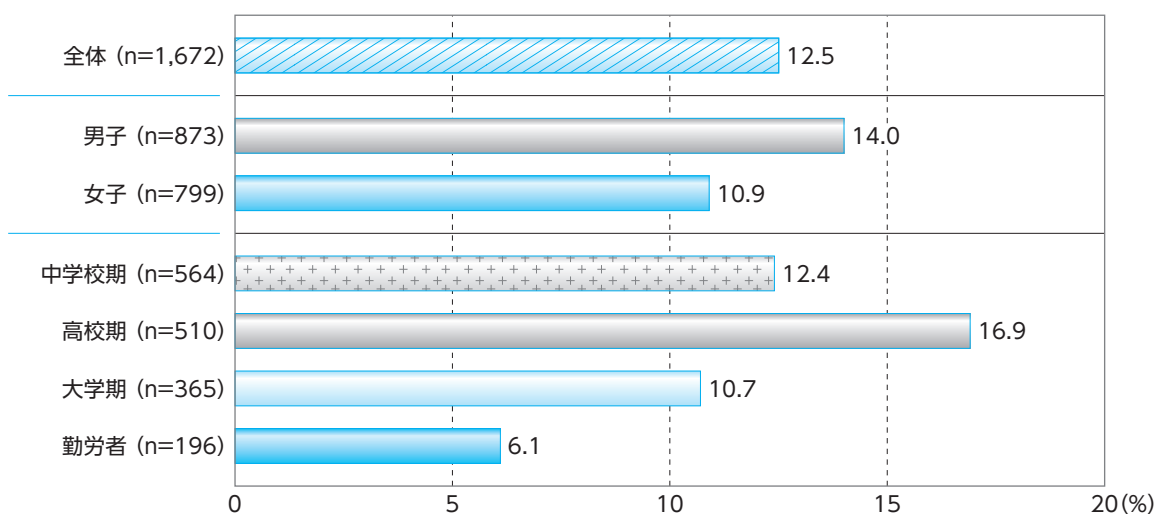
図8-2には性別と学校期別のスポーツボランティア実



【図8-1】スポーツボランティア実施率の年次推移(12～21歳)

注) 2005年～2015年は「10代のスポーツライフに関する調査」の12～19歳を分析対象とした

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019



【図8-2】スポーツボランティア実施率(12～21歳：全体・性別・学校期別)

資料：笹川スポーツ財団「12～21歳のスポーツライフに関する調査」2019

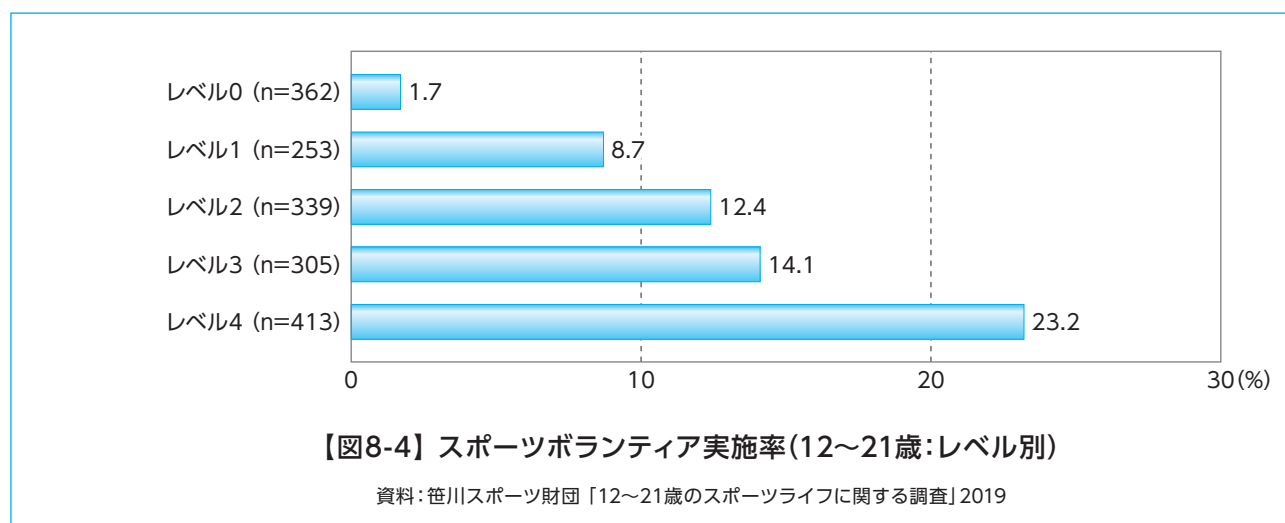
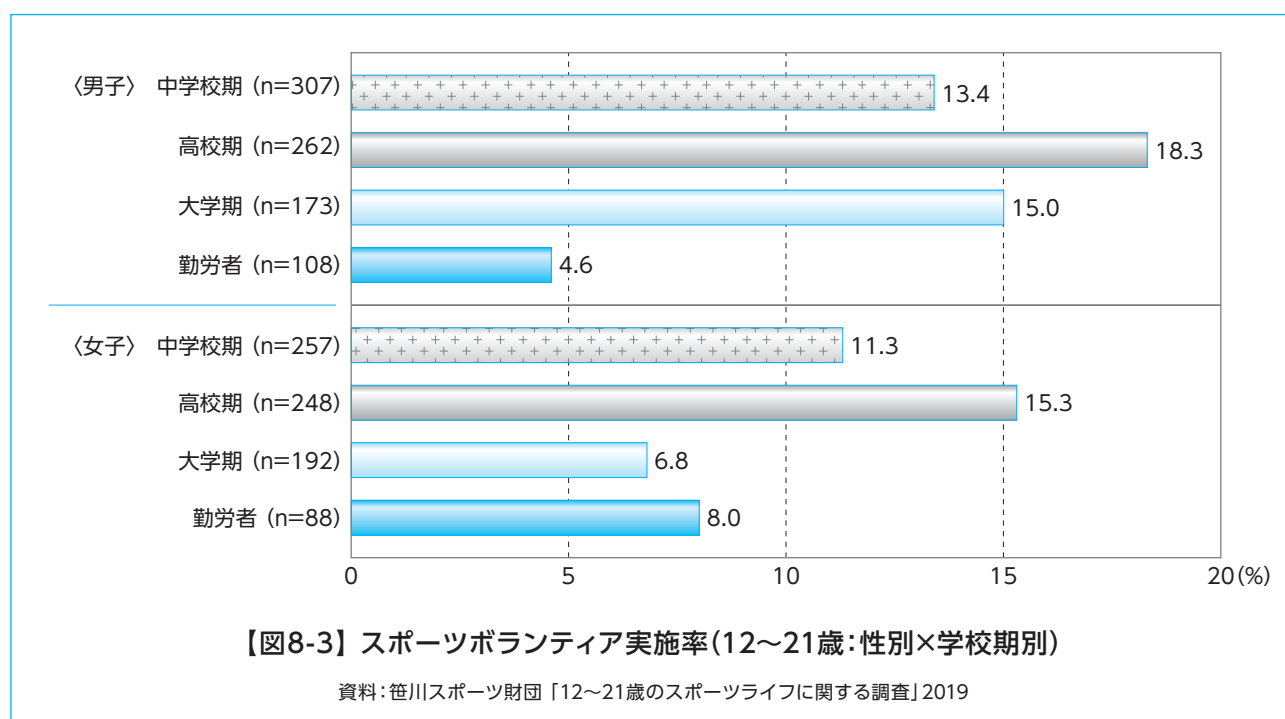
施率を示した。性別にみると「ある」と回答した者の割合は男子が14.0%、女子が10.9%であり、男子の方がスポーツボランティア実施率は高い。

学校期別にみると、スポーツボランティア実施率は高校期で16.9%と最も高く、次いで中学校期12.4%、大学期10.7%、勤労者6.1%であった。

図8-3には性別・学校期別にみたスポーツボランティア実施率を示した。男子は高校期が18.3%と最も実施率が高く、次いで大学期15.0%、中学校期13.4%、勤労

者4.6%であった。女子では、高校期の実施率が15.3%と最も高く、中学校期11.3%、勤労者8.0%、大学期6.8%と続いた。男女で比較すると大学期では8.2ポイント、勤労者では3.4ポイントの差がみられた。

図8-4に示す運動・スポーツ実施レベル別にみると「レベル0」1.7%、「レベル1」8.7%、「レベル2」12.4%、「レベル3」14.1%、「レベル4」23.2%と、レベルが上がるにつれてスポーツボランティア実施率も高くなる。



## 8-2 スポーツボランティアの内容

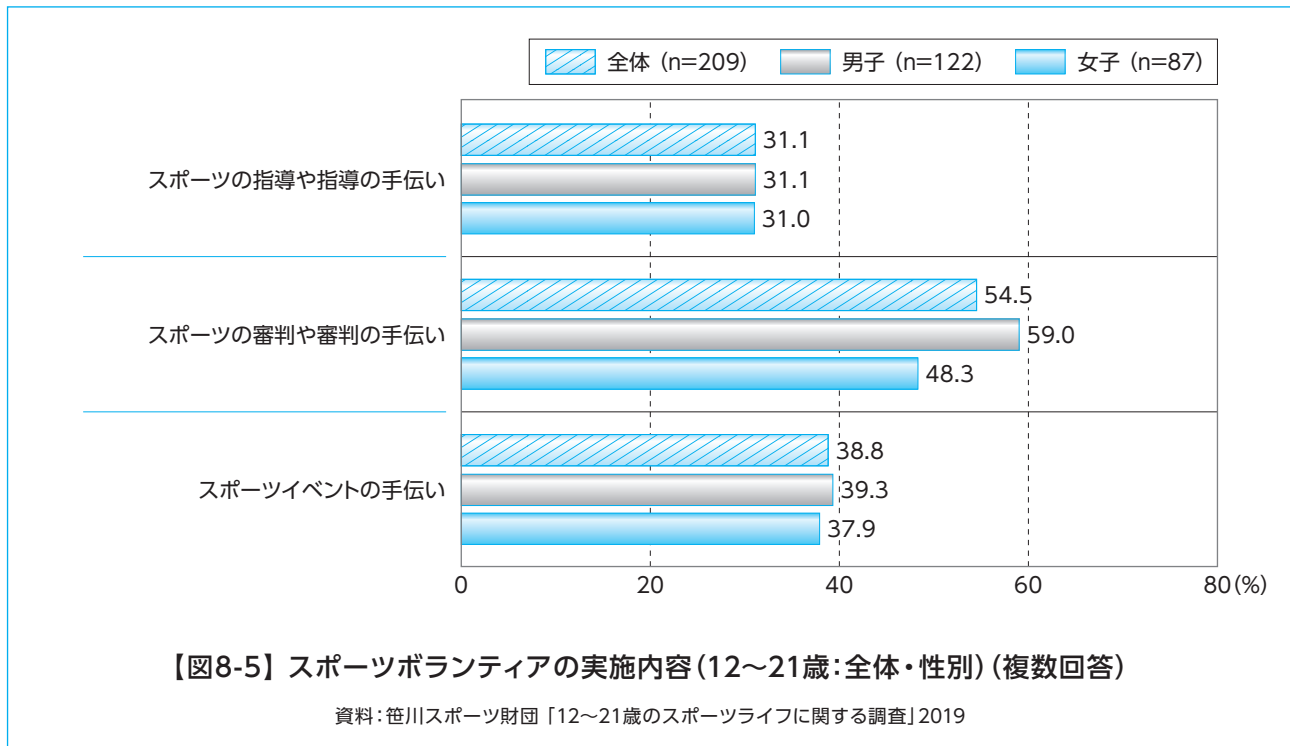
過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、その具体的な内容を複数回答でたずねた。図8-5に示す全体をみると「スポーツの審判や審判の手伝い」（以下、「審判」）が54.5%で最も高く、次いで「スポーツイベントの手伝い」（以下、「イベント」）38.8%、「スポーツの指導や指導の手伝い」（以下、「指導」）31.1%であった。

性別にみると「指導」は男女ではほぼ同じ実施率だが、「審判」と「イベント」は女子に比べて男子のほうが高い。

表8-1には、学校期別とレベル別にスポーツボランティアの実施内容を示した。学校期別にみると「指導」は大

学期が59.0%で最も高く、勤労者が50.0%と続く。「審判」は中学校期71.4%、高校期51.2%の順で高く、「イベント」は勤労者50.0%、高校期44.2%であり、学校期によって実施内容に特徴がみられる。

運動・スポーツ実施レベル別にみると「指導」は「レベル2」の実施率が47.6%で最も高い。「審判」は「レベル0」から「レベル4」まで、レベルが上がるにつれて実施率が高くなっている。一方「イベント」は「レベル4」の実施率が34.4%と最も低く、レベルが下がるにつれて実施率は高くなっている。



【表8-1】 スポーツボランティアの実施内容(12~21歳:学校期別・レベル別) (複数回答)

(%)

	中学校期 (n=70)	高校期 (n=86)	大学期 (n=39)	勤労者 (n=12)	レベル0 (n=6)	レベル1 (n=22)	レベル2 (n=42)	レベル3 (n=43)	レベル4 (n=96)
スポーツの指導や指導の手伝い	24.3	20.9	59.0	50.0	0.0	40.9	47.6	25.6	26.0
スポーツの審判や審判の手伝い	71.4	51.2	41.0	25.0	16.7	31.8	40.5	51.2	69.8
スポーツイベントの手伝い	30.0	44.2	41.0	50.0	66.7	50.0	40.5	37.2	34.4

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

### 8-3 スポーツボランティアのきっかけ

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、実施のきっかけをたずねた。表8-2に示す全体をみると「先生や指導者に言われたから」が58.2%で最も高かった。次いで「自分でやりたいと思ったから」32.2%、「友だちに誘われたから」12.0%となっている。

性別にみると「先生や指導者に言われたから」は男子57.9%、女子58.6%でわずかに女子のほうが高く、「自分でやりたいと思ったから」は男子35.5%、女子27.6%と男子のほうが高い。「友だちに誘われたから」は男子9.9%、女子14.9%であり、女子のほうが高かった。

【表8-2】スポーツボランティアのきっかけ(12~21歳:全体・性別)

	全体 (n=208)	男子 (n=121)	女子 (n=87)
先生や指導者に言われたから	58.2	57.9	58.6
家族に言われたから	5.3	6.6	3.4
自分でやりたいと思ったから	32.2	35.5	27.6
友だちに誘われたから	12.0	9.9	14.9
覚えていない	1.4	1.7	1.1

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

#### COMMENTS

- スポーツを含め、外で友だちと遊ぶ時間をつくってあげたいが、習いごとや学校の宿題が多く現状では難しい。学力の向上も大切ですが、遊んで学ぶことはもっと大切だと思う。(7歳女子の母親)
- 子どもが加入している野球チームでは、親の負担を減らすため当番がありません。そのため、働いている親の子どもも入りやすく、保護者が負担を感じず楽しく観戦できます。(9歳男子の母親)
- 部活動は色々な面で成長できる場なので、送迎などできる範囲で協力している。平日は母親グループが交代でお迎えをしたり、試合時も乗り合ったりします。コーチが不在なので指導者の派遣があると子どもたちの力を伸ばすことができると思います。(13歳男子の母親)
- 子どもは高校生まで野球をしていました。小学校のスポーツ少年団から昨年まで、地域の方々に支えられて続けることができたと思っています。今は地区のナイターソフトの試合に出たり、積極的に活動しています。(18歳男子の母親)
- 食生活に気を配り、栄養バランスのとれた食事を用意するよう心がけています。(15歳男子の母親)
- 自閉症や知的障害のある子が安全に安心して通えるスポーツの場所があったらと思います。(7歳男子の母親)
- 地域のスポーツ大会などでボランティアに参加すると、公共スポーツ施設の利用割引券をもらえるといった制度があると、ボランティア不足の解消や運動・スポーツ実施率の増加にもつながると思う。(11歳女子の母親)

資料: 笹川スポーツ財団「4~11歳のスポーツライフに関する調査」2019、「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

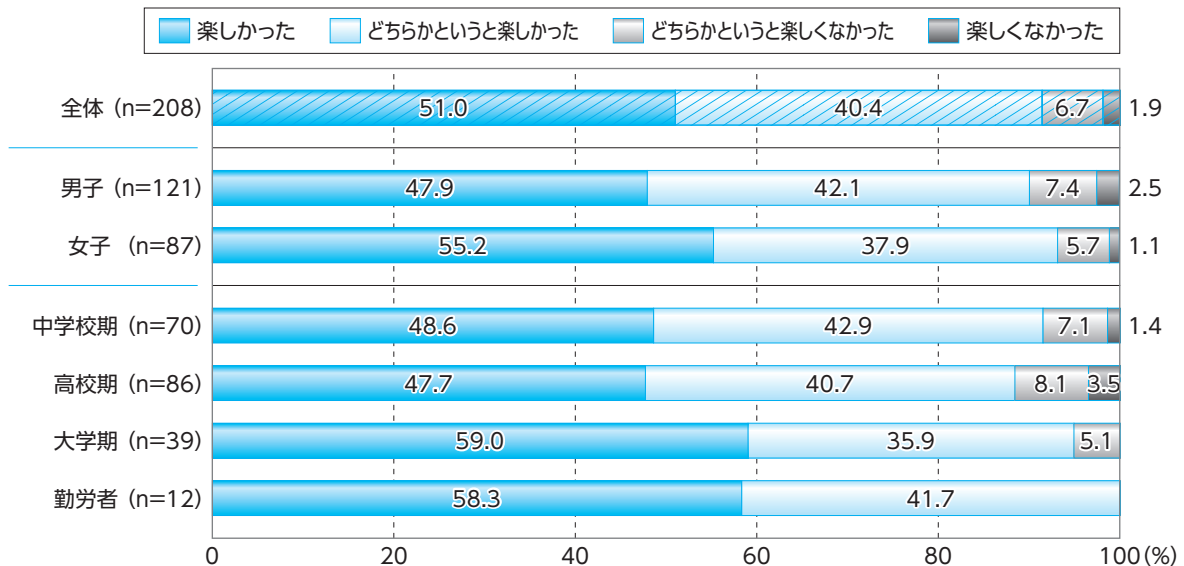
## 8-4 スポーツボランティアに伴う楽しさ

過去1年間にスポーツボランティアを行ったことが「ある」と回答した者を対象に、実施した活動は楽しかったかどうかたずねた。図8-6に示す全体をみると「楽しかった」は51.0%、「どちらかという楽しかった」は40.4%と、これらの割合を合わせた『楽しかった』の割合は91.4%であった。

性別にみると「楽しかった」は、男子(47.9%)に比べて女子(55.2%)のほうが7.3ポイント高い。

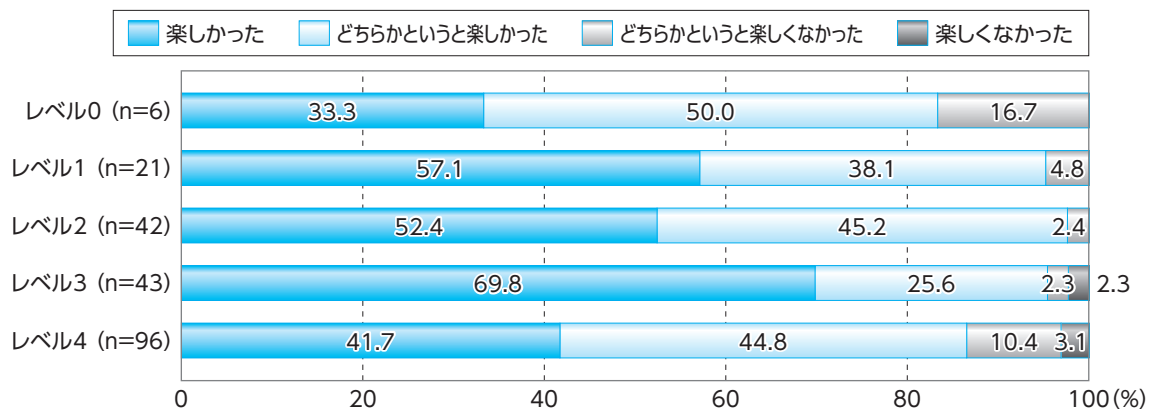
学校期別では大学期と勤労者で「楽しかった」と回答した者が5割を超えている。特に、勤労者では「どちらかという楽しかった」「楽しかった」と回答した者はいなかった。

図8-7には運動・スポーツ実施レベル別の結果を示した。「楽しかった」と回答した者が最も多いのは「レベル3」69.8%であり、次いで「レベル1」57.1%、「レベル2」52.4%であった。



【図8-6】スポーツボランティアに伴う楽しさ(12~21歳:全体・性別・学校期別)

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019



【図8-7】スポーツボランティアに伴う楽しさ(12~21歳:レベル別)

資料: 笹川スポーツ財団「12~21歳のスポーツライフに関する調査」2019

## 8-5 スポーツボランティアの実施希望

今後、スポーツボランティアをやってみたい、または続けたいと思うかをたずねた。図8-8に示す全体をみると「非常にそう思う」8.4%、「ややそう思う」29.2%、「あまりそう思わない」31.4%、「まったくそう思わない」15.7%、「わからない」15.4%であった。『そう思う』（「非常にそう思う」+「ややそう思う」）の割合は37.6%と、4割程度の青少年がスポーツボランティアの実施希望をもっている。

性別にみると、男子は「非常にそう思う」7.5%、「ややそう思う」29.0%、女子は「非常にそう思う」9.3%、「ややそう思う」29.3%であり、女子が男子をわずかに上回る。学校期別にみると、中学校期は「非常にそう思う」

10.8%、「ややそう思う」34.3%であり、「非常にそう思う」「ややそう思う」を合わせた割合は45.1%と最も高く、次いで大学期、高校期、勤労者であった。

図8-9には、運動・スポーツ実施レベル別にスポーツボランティアの実施希望率を示した。「レベル0」17.1%、「レベル1」29.0%、「レベル2」40.9%、「レベル3」42.6%、「レベル4」54.1%と、レベルが上がるにつれて実施希望率も増加する。特に、「レベル4」では半数以上がスポーツボランティアの実施を希望しており、積極的に運動・スポーツを行っている者ほどスポーツボランティアへの関心も高い。

